

オンデマンド配信授業実施ガイドライン

2021年7月2日制定

1 趣旨

本ガイドラインは、オンデマンド配信授業を適切に実施するための方法等について、必要な事項を次のとおり定めます。

2 オンデマンド配信授業実施要件

オンデマンド配信授業を実施するために必要な要件は次のとおりです。

(1) 学習支援システムの利用

オンデマンド配信授業は、本学の学習支援システム（関大 LMS 等）を利用して授業を実施します。

(2) 学習方法の提示

当該授業の目的・到達目標、教材を配信するタイミングや学習方法、時間外学習の内容、担任者との連絡方法等、授業に関する情報はシラバスおよび各回の教材に提示します。

(3) 教材の提示

各回の教材は、授業に関する文字、音声、静止画、動画等を組み合わせた内容とします。各回の教材に加えて、課題・演習等に取り組むにあたっての留意点、必要な視点・観点等を提示します。

各回の教材は、学年暦に基づく15回の授業計画に則し、毎週（回）提示します。なお、シラバスには教材を提示する曜日を明記します。

(4) 授業時間（回数）の確保

授業計画に則し、対面授業と同じく90分で1回の授業とすることを原則とします。ただし、教材に基づいて、課題・演習等を実施することも考えられます。授業としての学習時間が確保されるのであれば、教材そのものが1回90分である必要はありません。

各回の学習方法等はシラバスにも記載し、学生が学びやすいように提示します。

【例示：1回の授業構成】

学習方法	学習時間
【対面授業における1回に相当すること】 ・ 動画教材による学習 ▽ 前回の復習（振り返り）や課題のフィードバック ▽ 1章15分程度の動画教材を、3章～4章分提示し授業を構成 ▽ 取り組む演習課題、問い、確認テストの提示、それらの解説	授業時間に相当
【毎回の授業の実施あたって併せ行うこと】 ・ 課題提示、質疑応答の機会提供、双方向性の確保による学習 ▽ 課題：関大 LMS によるレポート、テスト、アンケートの提示 ▽ 質疑応答：関大 LMS によるチャット、メールでの質問回答 ▽ 双方向性：掲示板を活用したディスカッションへのコメント、課題への助言 ・ 受講生同士の意見交換、グループワークによる学習 ▽ 意見交換：学生の小レポート、発表資料へのコメントやディスカッション ▽ グループワーク：テーマを設定し、関大 LMS 掲示板で小グループによる学生同士のワーク	授業時間外学習に相当

(5) 双方向性の確保

各回の受講が終了した後は、速やかに関大 LMS 等を利用し、設問回答、添削指導、質疑応答等による十分な指導をあわせて行います。

(6) 学生の意見交換の場の確保

関大 LMS 等を利用し、当該授業の学習内容に関する学生同士の意見交換の機会を確保します。担任者や TA/LA が話題設定や問いかけを行い、学生同士の意見交換が活発に行われるようにします。

(7) 学習効果の確認

学習効果を確認するため、授業に出席した学生の特定、教材の学習履歴を通して、当該授業による理解度や学習状況の確認を行います。なお、確認手段には、関大 LMS による課題や確認テストの実施等があるほか、クラウド型 VOD システム（製品名：Panopto）による動画教材の視聴履歴の確認等の方法があります。

3 成績評価の方法

オンデマンド配信授業の成績評価方法は、原則として平常点による評価としますが、対面による筆記試験等も可能とします。対面授業と同様に、成績評価基準に基づき「素点（0～100点）」による評価を行います。

4 オンデマンド配信授業実施における留意事項

オンデマンド配信授業では、著作権法等の各種法令、本学の個人情報保護規程、遠隔授業に関連する本学が発信する情報等に従って実施することとします。また、特に次の事項についてご留意願います。

- 特定の個人を識別できる情報を、あらかじめ本人の同意なく配信しない
- 教材の配信、確認テスト等にあたって、適切な配信期間を確保する
- 多様なデバイスを想定して、教材の可読性（文字の大きさ等）に配慮する
- 特殊なソフトウェアを必要とする課題は課さない
- 学生の通信料負担軽減のため、教材の容量を圧縮する

以 上